2009/10/29更新

20の講義内容

手塚治虫作品集その16―『魔法屋敷』―

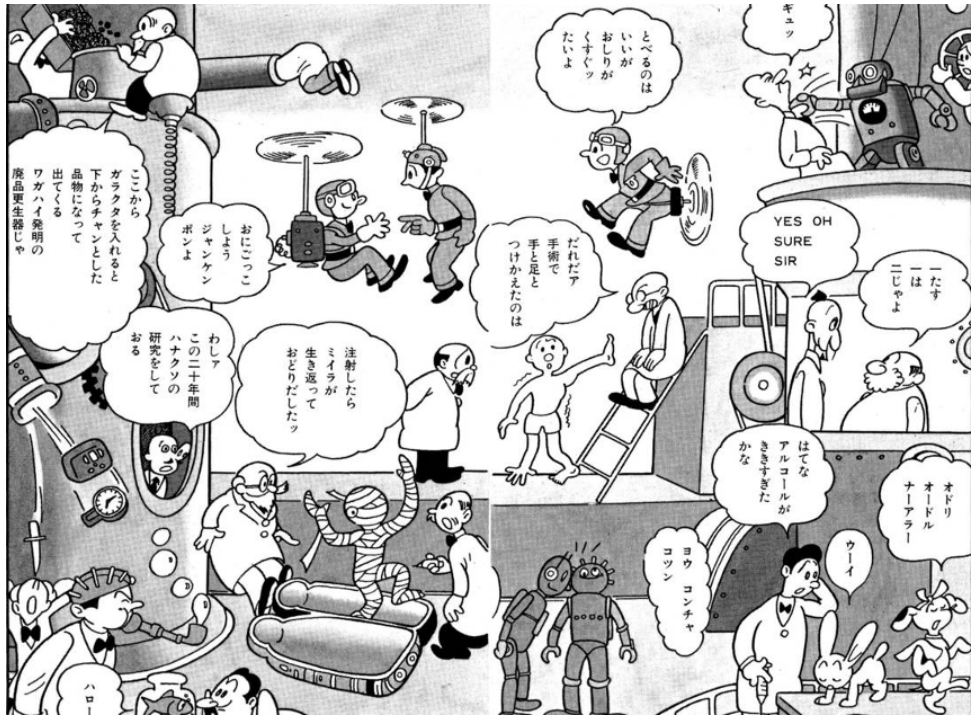
はじめに

冒険活劇大ロマンの二大名作のひとつ『魔法屋敷』とは、『地底国の怪人』と共に、昭和二三年に大坂の不二書房から出版されました。この不二書房の出版物は、江戸時代で云う「赤本」という部類に属する内容です。この漫画は、「書き版」という現在とは全く異なる製版方法で仕上げられています。

その方法は、手塚治虫さんの原稿を直接製版するのではなく、レタッチマンという専門家が原稿通りに絵を描き直して複写していくのです。ただ線をなぞるのではなく、漫画家の線を模写していく絵の技術が要求される特殊な職業でもありました。とはいえ、本人が書いたものを別の誰かが書き写し直すのでありますから、完全に同じというわけには成らないのです。手塚さんは、この点を常に意識して作品を見てきました。そこで後に、『地底国の怪人』については、子供新聞にまったくあらたなペンタッチを用いて再録したりしています。其の名を『アバンtユール21』というものです。そして、この不二書房の復刊が桃源社より、昭和五十年に出されたのです。今これを用いて読むことにします。

『魔法屋敷』

プローローグ(発端)で、悪魔(あくま)大王が登場します。この大王は、「魔法使い」たちを支配する立場にあります。この大王が百年ばかり地獄の方に旅行している間にぶらぶら怠けていたと云うのです。この結果、悪魔や魔法を人間が信じなくなったというのです。その人間たちが手にした科学文明の世の中こそが大きな転機をもたらしたというのです。その人間の科学者ヒゲタ博士と悪魔大王の對決が行われていくのでしょう。



パノラマ風に描いた場面もここに既に登場しています。この会話を右から順番に書き留めてみました。

「ギュッ」
「一たす一は二じゃよ」
「YES oh sure sir」
「ヲドリオードルナアーラー」
「ウーイ」
「はてなアルコールがききすぎたかな」
「ヤア、コンチア、コツン」
「とべるのはいいがおしりがくすぐッたいよ」
「だれだア手術で手と足とつけかえたのは」
「ラジウム原子を注射したらミイラが生きかえっておどり出したッ」
「おにごっこをしようジャンケンポンよ」
「わしア二十年間ハナクソのけんきゅうをしておる」
「ここからガラクタを入れると、下からチャンとした品物になって出てくる。ワガハイ発明の廃品更正器じゃ」
「ハロー」

「化物屋敷」から科学と魔法の勝負をヒゲ太先生に申し込んできたのです。ヒゲタ博士は、火星に留学したという人物で、その同級生が宇宙列車で地球にやってくるという流れがここにあって、火星の使節チロール氏が彼の元に尋ねてきます。

ホックとパックという狐と狸の化け物が登場します。

このパノラマ風景画を読んで見ましょう。

「サア、ここに世の中のお化けの正体がすっかりならべてあるよ。中へはいってゆっくりごらん」「あれ？ここは標本室ですか」「魔物陳列室」

蛇　ウワバミ

ふたつの頭をもったアオダイショウ白化型

へびもむかしから魔性の動物とされいろいろ伝説もありますが　中でも白蛇　双頭蛇は神さまのお使いとして人にあがめられました
しかし　これははんとの白いへびではなくアオダイショウというふつうのへびが何かのぐあいで白くなったものまたふたつ頭を持ったへびはへびのフタゴのできそこなったものです

よく大蛇（ウワバミ　オロチ）が出た話を聞きますが日本にはそう大きなへびはおらず大きいのでも二メートルくらいです世界でいちばん大きいインドのニシキヘビやアメリカのニズウワバミなどは十メートルくらいのもいるそうです

マムシ

近よるべからず

龍

翼手龍（羽龍）

龍も世界じゅうあらゆるところで知られている魔物ですがその形はいろいろで羽のはえたのや水かきを持ったのやまた手も足もないへびのようなかっこうのもあります
その形が前世紀に栄えていたという翼手龍や三奇龍や魚龍などの大きな恐龍と似たところがあるのはおもしろいことです
中国ではありとあらゆる武器をそなえた想像の動物が龍だといっています

三奇龍（トリケラトプス）頭骨の化石

鬼

いまから二十万年前　地球上に「ネアンデルタール人」というサルに似た恐ろしい原始人が住んでいました
そしていまの人間の祖先たちをさかいにおびやかしていましたがその原始人のみにくい姿がおぼろげながら子孫に伝えられて今日の「人食い鬼」の伝説に変わったのでしょう（ジョンストン氏の説）

また赤鬼　青鬼というのも古い昔　赤い色青い色をした野蛮人がどこかにいたのではないでしょうか

天狗様

ボルネオ島にテングザルというサルがいますせいは八十センチほどですがそのハナがすばらしく高くておまけに顔が赤く　天狗様そっくりです
たぶん大むかし　日本人の祖先たちが南洋に住んでいた頃南の島で見たこのサルの記憶が子孫に伝わりハナの高い猿田彦のみことや天狗という怪物をつくったのでしょう

テングザル

人魚と海坊主

コロンブスのアメリカ発見の頃大西洋のはてに住んでいると考えられた海坊主

人魚も海坊主もともに海にいるおばけで海坊主は恐ろしい魔物ですが人魚はどこの国でも美しい女とされています

テナントという人のかいた人魚（ジュゴンに似ている）

この正体は太平洋などに住むジュゴンというイルカに似た海の動物だといわれていますしかしまだたしかなことはわかりません

見世物の人魚

サルの頭とボラのシッポをつないでミイラにした　つくりものです

ジュゴン
太平洋産

幽霊

ユーレイというものはほんとにあるのでしょうか？
死んだひとがばけて出てくるというのははんとの話でしょうか？
心霊研究家という一部の人たちはほんとにあるものだといっていますがたいていの場合ユーレイを見たというのはピクピクしていたのでなにかを見あやまったことが多いのです
「幽霊の正体見たり枯れ尾花」ということわざがあります

元五郎

洞穴の中へおき忘れたにぎりめしの上にはえてユーレイとまちがえられたキノコの一種（ナミダタケ）

日本のユーレイ
アタマに三角のきれをつけ足がないのが特徴　たいていヒトダマといっしょに現れる顔は青く　うらみに燃えた恐ろしい形相をしている

アメリカのユーレイ
アタマから白いきれをスッポリかぶって顔は見えない　足があるのが特徴で　階段をのぼるとき足音がする　日本のユーレイよりもものすごさがすくない

○月○日
きょうはおじさんに
「魔法屋敷」というマンガの本を
買ってもらった
その中に魔法だの悪魔だのが
たくさんかいてあった
魔法はおとぎ話のようなものだと
おじさんがいった
こんなことがほんとにあると信じるのは
むろんよくないが
おばけや魔物は
ただ人間の心の中の夢として
いつまでも残しておきたいものだ
夢を忘れた人間はそれこそ
機械文明のコチコチな頭に
なってしまうと思う

〔魔法屋敷〕 完